

令和6・7年度県教育委員会指定研究協力校「学習者主体の授業」
始良市立建昌小学校 研究公開
(令和7年12月5日公開)

1 研究主題

主体的に学習に取り組み、「智をみかく建昌の子」の育成
～学びの変容を捉え、自己調整を図る授業を通して～

2 研究発表

全体会Ⅰでは、研修係の本多浩輔教諭が研究発表を行いました。その中で、建昌小学校では、子どもたちの実態から主体性や個別最適な学び、メタ認知や自己調整に課題があると捉え、目指す児童像、授業像を以下のように設定しました。

【目指す児童像】

見通しをもって学びに取り組み、振り返り、次の学びにつなげることを通して、主体的に学習に取り組む児童

【目指す授業像】

児童が自ら問いをもち、解決の見通しをもち、自分で選んだ解決方法で取り組み、振り返りのできる授業



【研修係による研究発表】

上記を目指して実践された研究内容や具体的な取組は、以下のとおりです。

(1) 振り返りの工夫

- ・ 振り返りの目的の確認
- ・ 振り返りの視点の明確化
- ・ 振り返りを位置付けた授業

(2) 見通す・選択する場の工夫

- ・ 見通す場の工夫
- ・ 自己選択の場の工夫

(3) 環境の工夫

- ・ 教室環境の工夫
- ・ 学習意欲を高める掲示

(4) その他の工夫

- ・ 自己調整を図るための工夫
- ・ 授業プランシートについて

3 公開授業

公開授業では、2単位時間にわたり、計10本の授業が公開されました。全体を通して、主体性、自己調整、省察力の観点から以下のような様子が見られました。

【主体性】

・「問い」をもたせる導入や見通しの提示、個々に応じた支援を行うことで、子どもたちは興味をもって主体的に学び、学習内容に対する理解を深めていました。

【自己調整】

・数多くの選択肢の準備（丁寧な教材準備）と実態に応じた的確な支援で、子どもたちはゴールを意識し、協働的に自己調整しながら学習を深めていました。

【省察力】

・目的意識をもたせ視点を与えて振り返りを行うことで、子どもたちは学びを整理し、自分の成長を感じることができていました。



【5年生公開授業の様子】

4 全体会

(1) パネルディスカッション

鹿児島国際大学の辻准教授をモデレーターに迎え、建昌小学校の5人の先生方が登壇し、「学習者主体の授業をもっと身近に！～一人の百歩から百人の一步へ」というテーマでパネルディスカッションが行われました。その中で話題になった建昌小学校の実践のポイントは以下のとおりです。



【パネルディスカッション】

ア 授業デザインの工夫

- 見通しをもたせる（単元計画・学習一覧表）
- 選択・自己決定の場面を設定
- 振り返りを次の学びに生かす仕掛け

イ 学年別の特徴

- 低学年：先生と一緒に学び方を学ぶ，振り返りの楽しさ重視
- 中学年：主体性を育む選択場面の設定，協働的な学びの重視
- 高学年：自己調整力を高める，協働学習の習慣化
- 特別支援学級：選択肢を絞り，成功体験を積ませる

ウ ICT活用

- 実験記録，写真，動画，スプレッドシートでの共有
- 自己選択型の課題提示，情報活用力の育成

(2) 講演

『子どもに任せる「学習者主体の学び」を進めていくために』をテーマに，ベネッセ教育総合研究所 教育イノベーションセンター 主席研究員 庄子 寛之 先生による講演が行われました。その内容は以下のとおりです。



【講演】

ア 教育を変える必要性と背景

(ア) 人口減少

教育のあり方は「大量生産型」から「個別最適・多様性重視」へ転換が必要。

(イ) 教師不足

効率的な授業設計やICT活用が不可欠。

(ウ) テクノロジーの進化

知識伝達型から「問いを生み出す力」「応用力」を育てる教育へシフト。

イ 学習者主体の学びの本質

(ア) 子どもに「任せる」

子どもが自分で考え，選び，動ける環境を整える。

(イ) 問いをもつ力を育てる

「なぜ？」を考え続けることが学びの原動力。

(ウ) 「ワクワク」する

大人自身が「ワクワク」する姿勢により，子どもも主体的に学ぶ。

ウ これからの授業デザイン

(ア) 個別最適化と協働学習

ICTや教材を活用し，子どもの進捗や興味に応じた学びを組み合わせる。

(イ) パフォーマンス課題の重視

知識を使って考え，表現する力を評価する。

(ウ) 振り返りと選択の保障

紙・デジタル・音声など多様な方法から，子どもが選べる状態をつくる。

エ 学習者主体の授業

- 子どもが自分で考え，問いをもち，学びを進めることを重視。
- 教師は「教える人」から「ファシリテーター」へ役割転換。
- 授業は「レストラン型」から「バーベキュー型」へ→安全と素材を準備し，子どもが主体的に調理するような学び。

オ 講演のキーメッセージ

- 「問いをもち続けること」が学習者主体の本質。
- 大人がワクワクする姿勢が，子どもの学びを変える。
- 教師は「知識を教える人」から「学びをデザインする人」へ。